

「シンギュラリティ」の時代は？

令和の時代に何が起きるのかという特集が新聞で掲載されていました。

その中で、

令和 27 年に、シンギュラリティが発生する。

という内容に目が引かれました。

お前は、そんな時代まで生きようとしているのかと叱られそうですが、

そういう時代はどうなっているのか、

一目見たいと思ってしまうのが私という人間の悲しい「さが」です。

シンギュラリティとは、人工知能(AI)が人類の知能を超える転換点で、

それがもたらす世界の変化のことを言うそうです。

米国の未来学者レイ・カーツワイルが、2005 年に出した“The Singularity Is Near”(邦題『ポスト・ヒューマン誕生』)でその概念を提唱し、徐々に知られるようになりました。

カーツワイルは本書で「2045 年にシンギュラリティが到来する、と予言すると共に、AI は人類に豊かな未来をもたらしてくれる。」という楽観的な見方を提示しています。

一方で、

ドイツの新進気鋭の哲学者マルクス・ガブリエルは、シンギュラリティ論はナンセンスだという意見を持っています。彼は、こう言います。

「進歩はテクノロジーの発展で生まれるものではありません。例えば、中国では、テクノロジーと自然科学の力によって、自由がどんどん失われています。サイバー毛沢東主義とも呼ぶような独裁と監視社会が進行しています。残念なことです。私たちは危機の時代に立たされています。これからの 100 年のために、分かれ道の前でどちらに進むか決めなければなりません。一方の道は、世界規模のサイバー独裁や全人類の滅亡に続きます。そしてもう一方の方には、普遍的なヒューマニズムを追求していく道があります。後者に進むのであれば、私たちは、様々な人間の在り方を会議のテーブルに持ち寄り、グローバルな格差をなくしていくためのシステムを共につくらなくてはなりません。それができて、人類滅亡というファンタジーは消え去っていくのです。」

2045 年は、私たちの孫が成人している時代です。

私は、いつの時代の人間も穏やかに平和に生きたいと願ってきた歴史を学んできました。

孫たちが生きる時代が、人を優しくサポートしてくれる「ドラえもん」のようなロボットと共存している世界を期待しています。(M.Y)